

大鹿村リニア対策委員会報告

大鹿村はリニア工事による生活や環境に与える影響をできる限り少なくし、リニア工事が地域経済や村づくりに貢献されるよう、「大鹿村リニア対策委員会」で要望事項や対策を検討しています。8月に開催された第9回対策委員会の内容を以下のとおり報告いたします。

第9回対策委員会（平成27年8月18日 午後1時30分～3時45分開催）

○協議事項 関係3者（JR東海、中部電力、長野県）との意見交換

前回の対策委員会で示した、質問・要望について関係3者から回答を聞いた後に、その内容について意見交換を行った。

○松川インター大鹿線などの道路改良

【松川インター大鹿線】

■道路管理者として、JR改良箇所以外の県の改良計画の提示。

県「リニアに関連する道路改良はJRがすべきもの。JRの改良箇所は、擦り付け部分を含め広範囲となるようお願いしている。それ以外は、2本のトンネルの新設を優先する。県も相応の負担をする。その他、渡場交差点の歩道設置の測量を今秋より行う。」

・発生土運搬が始まってから、工事期間中の道路改良は可能であるか？

県「発生土運搬開始までに改良するのが基本。検証の結果、改良工事が必要となれば車両制限も必要となる。」

■半の沢について、発生土置場としての利用が進むよう、県の協力が必要。

・県はJRの改良計画で十分と考えるのか？

県「懸念はわかる。沢を埋め立てるには安全上のチェックが必要。JRの改良箇所の取り付けを延ばしてもらえるようお願いする。その他は、現時点で具体的に示すことはできない。」

・4者（大鹿村、中川村、長野県、JR東海）協議で具体的な話が進んでいない。半の沢についても同様。現実に検討しているのか？

JR「半の沢の発生土置場は魅力的である。JRの発想になかった。今までの経験からハードルは高いと思われるが、話は進めていく。」

委員「今の県の回答では、JRの改良以外は何もやらないように聞こえる。村民の大多数は、完全2車線でなければリニア工事は受け入れられない。」

■松川インター大鹿線 トンネルと拡幅工事の発注方法と工事内容、工事日程等の提示。

県「現在設計中であり、協議中。」

・拡幅工事について、地元業者が受注できるよう、県発注にできないか？

県「建設業協会からも県に要望があり、調整していく。」

【赤石岳公園線】

■早期の地元説明を要望

JR「昨年測量と地質調査を実施。現在設計中。」

【国道152号】

■概略計画の段階で地元説明を要望

JR「現在、測量と地質調査中。その後、設計。絵姿を県に一度見せる。その後、地元へ説明。」

○変電所ならびに送電線

■架空送電線とした場合の、景観変化について、調査範囲内で複数ルートへの提示。

・架空線ルートの違いによる景観への影響の違いをフォトモンタージュで説明。

中電「机上検討によるフォトモンタージュについて、調査範囲内で北側、南側の2ルートとし、各々景観対策済み、対策なしで作成した。鉄塔の高さは60mとし、電線下がバリカン状にならないよう考慮。視点場は、大西公園、小渋橋、福德寺、中央構造線博物館とした。」

- ・架空送電線の場合の人体への電磁波の影響について説明願う。

中電「地上1mで200マイクロテスラ以下とする基準に則る。」

■送電線に係る現地調査日程の説明を願う。

中電「9月中旬を目途に地権者に了解をもらう。その後2～3ヶ月で現地調査。ルート協議は平成27年度下期を予定。その他、自主的に動植物調査を実施する。平成29年度上期で調査終了予定。」
※架空ありきでなく地中化も含めた現地調査であることを中部電力に確認し、現地調査を了承した。

○大鹿村内の工事スケジュール

■工事着工までの具体的なスケジュールを示すこと。

- ・契約手続き（工事公募）について、工事の概要及び契約手続きの流れについて説明願う。

【工事概要】

（工事名）中央新幹線南アルプストンネル新設（長野工区）

（工事内容）トンネル工事（本線トンネル約8.4km、先進坑、非常口（斜坑）等を含む。）

（工期）契約締結の翌日から平成38年11月30日まで

（留意点）関係する地域との連携を密にして、環境の保全に十分に留意して実施する工事である。

【契約手続きの方式】

技術提案を受け、価格以外の要素と価格を総合的に評価して、協議の上で契約を締結する方式（公募競争見積方式）の工事。

【公募の流れ】

- ・8月3日に公募開始。
- ・11月4日までに施工計画書を提出してもらう。その後、ヒアリング。
- ・1月15日見積書提出期限。業者の順位づけに10日から2週間。社内手続きに1週間。
- ・契約の締結は2月になると思われる。

・発生土置場が決まっていない段階でどうやって見積りが出せるのか？

JR「仮の条件で見積りしてもらっている。その他、国道152号（市場通り）の迂回は含まれる。変電所用地の造成は追加で入れる。59号の改良、小渋川橋梁は別発注。」

・南アルプスと伊那山地を分けて発注する理由は？

JR「南アルプスは工程がきつい。伊那山地は工程に余裕があるため。伊那山地の発注方法は決まっていない。」

・請負業者に丸投げでは困る。最後までJRで面倒をみてほしい。JRが主体なのだから。

JR「大きな工事となるため、文書で確認したい。」

○意見・要望

■山梨実験線における水枯れ対策の実例を説明願う。（保全措置を行った上で起こった事象とその対策及び分析結果）

JR「一部で減水が確認され、必要な恒久対策をしている。」

・具体的な保全措置の内容は？

JR「覆工コンクリート等を行っている。水枯れした所での、薬液注入は行っていない。」

・南アルプストンネル工事では、山梨で行った以上の対策をしてほしい。

JR「懸念は良くわかる。南アルプストンネルは土被りが大きいので、よりグレードの高いものが必要。それ以降の知見を踏まえる。」

○その他 委員提案の検討

- ・関係者（JR東海、中部電力、長野県）を呼ばない対策委員会の開催について委員提案があり、検討を行った。委員会での総括が必要との意見が出され、次回の対策委員会は委員のみで開催することとし、次回開催を9月25日（金）13:30～としました。

○現在行われているリニア着工前の調査状況は、大鹿村ホームページ、大鹿村ケーブルテレビ文字放送・データ放送で確認いただけます。